

1. 学生のみなさんへ

今、私たちは「混沌とした時代」を迎えています。

それは新型コロナウイルス感染症の話だけでなく、AI などによるデジタル改革やグローバル化の行方であり、気候変動や格差・分断などに起因し、そうした様々なことが劇的かつ加速度的に変化する中で、その変化に人々の思考は追いつくことが出来ず、不安や萎縮が生ずることにより起きています。時代はまさに「VUCA（ブーカ）な時代」へと突入したのです。

「VUCA」とは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）という4つの単語の頭文字から作られた造語ですが、1990年代から米軍で使われ始め、2010年代になってビジネスの世界でも使われるようになりました。それでも当時はまだ時代の変化は緩やかであり、実際に私たちがその変化に振り回されることはなく、私たちの生活を脅かすものでもありませんでした。しかし、2020年に新型コロナウイルスが蔓延すると時代は一気に動きはじめ、政治判断が揺れ動く中で真偽の定かでない情報に振り回され、見えない不安や恐怖にさいなまれ、拳句、前に進むことが悪しきことのような雰囲気すら漂うようになりました。

しかし、「VUCAな時代」の今だからこそ、前に進むことが求められるのです。

前述したように、幸いにも、こうした時代が来ることは10年以上前から予見されていたわけで、この時代をどう生き抜くかは、新しい学習指導要領の中に込められています。

これまでの学校教育は、決められた知識を積み上げることで成立し、その知識の積み上げによって生きてゆくことが可能でしたが、「VUCAな時代」では、その知識だけでは通用しなくなるため、「豊かな創造性を備え持続可能な社会の作り手」となることが求められています。言い換えれば、「何を学んだか」に重点が置かれた従来の方針から、「何ができるようになったか」を重視する方針へと大きくシフトしたのです。

そして、それは正に静岡産業技術専門学校が行ってきた教育そのものとなります。

本校では50年以上前から「できる」ことを目的とした教育を実践しており、社会に貢献するため、そして一人ひとりが前に進むために歩んできました。

この混沌とした時代を乗り越え、一歩進んだ心躍る未来を創造するために、努力され、そして充実した学生生活を送られることを期待しています。

2024年4月
校長 佐藤 雅一